

■本資料のご利用にあたって(詳細は「利用条件」をご覧ください)

本資料には、著作権の制限に応じて次のようなマークを付しています。
本資料をご利用する際には、その定めるところに従ってください。

***** : 著作権が第三者に帰属する著作物であり、利用にあたっては、この第三者より直接承諾を得る必要があります。

CC : 著作権が第三者に帰属する第三者の著作物であるが、クリエイティブ・コモンズのライセンスのもとで利用できます。

 : パブリックドメインであり、著作権の制限なく利用できます。

なし : 上記のマークが付されていない場合は、著作権が東京大学及び東京大学の教員等に帰属します。無償で、非営利かつ教育的な目的に限って、次の形で利用することを許諾します。

- I 複製及び複製物の頒布、譲渡、貸与
- II 上映
- III インターネット配信等の公衆送信
- IV 翻訳、編集、その他の変更
- V 本資料をもとに作成された二次的著作物についての I からIV

ご利用にあたっては、次のどちらかのクレジットを明記してください。

東京大学 UTokyo OCW 学術俯瞰講義
Copyright 2015, 西芳実

The University of Tokyo / UTokyo OCW The Global Focus on Knowledge Lecture Series
Copyright 2014, Kazuhiro Ueda

スマトラ大津波が繋いだ世界

西 芳実

はじめに

- ・災害が被害も支援も国境を越えて及ぶ時代
- ・災害は地域のあり方をどのように変えるのか？
- ・災害から地域を見る／地域から世界を見るとは？

1. アジアは災害で繋がっている

◇「アジアは災害で繋がっている」

- －地震・津波・噴火災害が多発するアジア
- －経済成長／相互交流の緊密化

◇2つの災害対応

- －1995年阪神淡路大震災（自助・共助・公助）
- －2004年スマトラ島沖地震・津波災害（自助・共助・公助＋外助）

2. 2004年スマトラ島沖地震・津波災害（インド洋大津波／スマトラ大津波）

◇最大の被災地となったインドネシア・アチェ州

- －未曾有の被害（死者行方不明者17万3000人）と「史上最大の作戦」
- －裏切られる被災者像（明るい表情／再婚／支援者への注文 etc.）

◇被災と復興の10年をたどる

- －津波縁日（被災当時の写真が売り物に。被災者は気にしない？）
- －墓地の穴（遺体が見つからない中でどのようにして弔った？）
- －復興住宅の空き家（復興住宅が完成したのに人が住まない？）
- －津波博物館（展示物がほとんどないまま仮オープン。何を見せたい？）
- －被災7年目の戒め（順調に復興を遂げても強い自責の念を示す州知事 なぜ？）
- －被災地を観光地に（人は忘れるもの。世代や地域を越えて伝えるには？）
- －経験と思いを伝える（人々の思いをどのような方法で集め、残すか）

3. スマトラ大津波は何をもたらしたのか？

◇被災地にとって

- －世界との繋がり（世界の国々にありがとう公園 etc.）
- －国内・地域内で災害対応を通じた相互交流
- －地域の経験を人類社会の経験として他地域・次世代に伝える教育・研究拠点

◇私達にとって

- －災害対応に新しい考え方（自助・共助・公助に外助も）
- －災害対応を通じて社会の他の分野の課題も解決できるかも？

－異なる文化の人々が協働する経験

◇防災の国際協力

－地域により防災の経験と知恵は異なる

－日本がアジアに教える／アジアに即して教える／アジアから日本が学ぶ

－よそものであっても当事者なのかも

終わりに 地域から世界を見る目を鍛える

・私たちは異質な他者と（思いもよらない形で）地続きで繋がっている

・地域研究の視線（「数えられないもの」「規格外」のものに意味を見出す）

メッセージを読み解く力（言葉に託されるもの／言葉にならないもの etc.）

大きな文脈や課題に位置づける力

もっと考えたい人に

国際協力一般

・入江昭（2006）『グローバル・コミュニティ——国際機関・NGOがつくる世界』早稲田大学出版部。〔国籍や民族によって区切られない人類共同体はどのように希求されてきたのか〕

・高橋哲哉・山影進（編）（2008）『人間の安全保障』東京大学出版会。〔危機が国境を超える現代、国単位で解決できない安全保障を人間の視点から問い直す〕

災害と国際協力

・明石靖・大島賢三監修、柳沢香枝編（2013）『大災害に立ち向かう世界と日本——災害と国際協力——』佐伯印刷。〔自然災害に関する国連を中心とする国際的な取り組みと日本の役割を紹介する〕

・牧紀男・山本博之編著（2015）『国際協力と防災——つくる・よりそう・きたえる』京都大学学術出版会。

日本の災害対応を問い直す

・矢守克也（2009）『防災人間科学』東京大学出版会。〔阪神淡路大震災の経験を踏まえて「文系の防災学」の探求と実践の試みを示す〕

・矢守克也（編）（2014）『被災地デイズ』弘文堂。〔災害対応の現場にある「正解のない問い」から被災地の日常を想像する力を鍛える〕

・牧紀男（2011）『災害の住宅誌——人々の移動とすまい』鹿島出版会。〔「被災前と同じ場所で住宅再建」は世界の非常識？！世界の災害復興の経験から学ぶ〕

災害対応から世界を捉える

・山本博之（2014）『復興の文化空間学——ビッグデータと人道支援の時代』京都大学学術出版会。〔災害をめぐる多様な情報を限られた時間でどう読み解き、具体的な行動に繋げるか〕

・西芳実（2014）『災害復興で内戦を乗り越える——スマトラ島沖地震・津波とアチェ紛争』京都大学学術出版会。〔被災前の社会の課題を踏まえることで災害対応の中に託された人々の思いを読み解く〕